

「発言リスト」

日時：令和3年9月15日（水）午後7時～

場所：恵那市会議棟 中会議室

-
1. あいさつ
 2. 議題 今後の恵那市の子育て支援施策について
 - ①高校生への支援
 - ②少子化対策
 - ③こどもの育成
 - ④こどもの健康
-

1. あいさつ

■事務局（伊藤）：お忙しいところお越しいただきありがとうございます。前回に続き、本日もコロナの緊急事態宣言期間中での開催となり、申し訳ありません。緊急時代宣言ということで、子ども元気プラザや児童センター等も閉館している中で、新しい試みとして子育て応援動画を作っております。元気プラザでは4本の動画、恵南の子育て支援センターでは2本の動画を所の先生たちが作ってYouTubeに挙げる取り組みを行っている。

本日は2回目の検討部会という事で前回までにだいたいの項目はお出しただいたものと解しております。今日はその項目について一つ一つ深めてご意見をいただければと思う。

事前にお配りした資料の他に、本日初めてお配りする資料があり事前に目を通していただけなかったことにおわび申し上げます。

市議会の方でも、市民意識調査の中で市民は支援を望んでいるがどのように支援をしていくのか？というような質問もいただいておりますので、子ども・子育て会議で話し合っている旨を答えておりますので、本日も引き続きご審議をお願いいたします。

■事務局（鈴木）：資料の確認。

- ・ えなえーるのパンフレット
- ・ 予防接種の内容とスケジュール
- ・ 発言者リスト
- ・ 子育て支援施策検討資料

■坪井委員長：9月1日に続いて2週間に1回のペースで会議をしている訳ですが、事務局から送られた記事録をみると、皆さんから本当に色々なご意見をいただいている事が判る。今回項目ごとに打ち直していただいているので、判りやすくなっていると思う。本日最終的にまとめたいと思う。

1. 高校生への支援

- 医療費助成について、 前回の会議では、「財政が許すのであればぜひやって欲しい」というご意見でまとまったかと思うが。
- 若い人検診について、 現在は19歳から成人病などの検診が受けられるが、蜂谷 Dr. から「恵那の子どもたちには肥満が多い。隠れ糖尿病予備軍も居る。」というご指摘があり、少しでも健康意識をもってもらうため、高校生にも検診を受けてもらえるようにはできないだろうか。というご意見だった。
- 予防接種の助成について、 資料のとおり インフルエンザの予防接種の助成を中学生まで実施しているが、高校生まで拡大する事はできないだろうかというご意見。

●医療費助成について

現在ほぼ全員ほとんどの子が高校へ行く時代、義務教育のような状態のなかで、医療費・検診・予防接種を引き上げて欲しいという意見があった。

医療費の助成は通院まで実施すると3,200万円ほどかかるという報告があった。

保護者の負担を軽減する意味でも、高校生の医療費助成を実施して欲しい。

シングルの家の子が進学をあきらめているという話を聞いた。医療費の助成とか高校生の支援に少しで役に立つのでは…

■高校生（18歳まで）の医療費助成をお願いしたい。

医療費の助成については、皆さん賛成でよろしいか。
《全員賛成》

●若い人検診の拡大

肥満児童生徒の増加、隠れ糖尿病予備軍が増加しているとの報告あり。

若い人検診については、19歳の受診対象を15歳に下げてもらいたい

小中学生は検診をやらないのか？ 学校ではやってないのか？

学校では糖尿病や成人病の検診はやっていない。小中の対象ではない。学校の検診とは別で自分で保健センターに受けに来てもらう大人向けのものを考えている。

狭間で高校生が落ちてしまっていれば必要。学校でやっているという事であればよいが…

隠れ糖尿病の予備軍が多いという裏付けデータがあれば、そこに特化した対策が必要ではないか。1コインでそのあたりの検診が受けられるというものあり得る。

■調査してもらって、落ちているようであれば高校生は追加して欲しいという要望でよろしいか。

子どもたちに糖尿病が多いとのご指摘だったが、学校の先生方はご存じか。1型糖尿病で低血糖になって意識がなくなった場合、周りの人が適切な処置をしないと命に関わる。この子が糖尿病だという事を先生を含め周りの人が知っておく必要がある。ただし病気による差別の問題もあるのでセンシティブな問題。
子育て施策というよりは、子どもの命に関わる問題なので、医師会や学校を通じて、確認してもらっておく必要がある。

●予防接種女性の拡大

インフルエンザの予防接種は学生も受けてもらいたい。

今年はインフルエンザのワクチンが少ないらしいという情報も入っている。昨年インフルエンザにかかる人が少なかったので今年にはワクチンの需要が少ないと見込んでいるのかもしれない。

1歳から中学生までとなっているが、18歳までは同じ子どものくくりであるので、分けることなく助成してもらいたいと思う。

うちは企業で従業員に全額助成をしている。他の会社でも助成しているところは多いと思う。であれば高校生の所だけ抜けてしまうのもどうかと思う。

インフルエンザと書いてあるが、今後コロナのワクチンもどのようになるかは判らない

コロナについても今後どのようになるかは判らないが、予防接種は小・中と同じように助成をしてもらいたい。

大人は抜けて、また65歳以上になると助成されるが、まあ働いて収入のある人は自分でという事で仕方ないかとは思いますが、高校生は同じ子どもとして扱って欲しい。

●学生版三学塾

市としては現在取り組んでいない。高校生に特化したプログラムは無いが、制限もしていない。西尾委員からいただいた意見は、高校生向けや、若い人も来やすいプログラムがあっても良いのではないかと。というご意見であった。

中高生とした方が良いかと思うが、高校生に限って考えても、何か繋がりが欲しい、きっかけが欲しいという子はたくさんいる。三学塾のように場所だけ作れば自ら来てくれる子も居るだろう

●高校生向け相談の場

高校生の相談の場については、議事録や発言リストをご覧いただくと判るように、前回の検討委員会では議論が集中していた項目かと思う。

中高生とした方が良いかと思うが、高校生に限って考えても、何か繋がりが欲しい、きっかけが欲しいという子はたくさんいる。三学塾のように場所だけ作れば自ら来てくれる子も居るだろうし、こちらから手を差し伸べないと相談できない子も居る。できれば専門の先生から意見を聞きながらアウトリーチの方法を具体的に探っていくのが良いと思う。

<p>まずは場を持つ事が必要。コロナ禍でそういうニーズも高まっているのではないか。ちょっと手を伸ばしてあげないといけない子、ひと声かけてあげないといけない子にどういう支援が必要かというあたりを考えていかなければいけない。「相談できる人がいつもここに居る」というところから始めても良いのでは。</p>
<p>確かにコロナ禍で学校が終わるとすぐ帰宅となってしまう。ウチは孫の友達のたまり場になっている。やはり彼らは「話したい」「話せる場」を求めている。ショッピングセンターが良いのか、公園が良いのか・・・</p>
<p>明智鉄道の駅に子どもたちが待ち時間に勉強ができるスペースを作るという話を以前聞いた気がする。今どこまでできているのかは判らないが… 恵那は大きな図書館があって、勉強をするスペースがあるが、明智や山岡には無い。</p>
<p>以前、明智の駅前の建物を利用して、明智町の町づくりの人たちが取り組みを始められると聞いたことがある。</p>
<p>まだ浸透してないのかも… そういった場で相談ができて、カテゴリー別に、お金で悩んでいるのか、将来で悩んでいるのか、学業で悩んでいるのかをまず聞いて、そこから専門家へ繋いで支援をしていけたらと思う。</p>
<p>シングルの家の子が進学をあきらめているという話を聞いた。医療費の助成とか高校生の支援に少しで役に立つのでは…</p>
<p>集まるだけでなく、先生のOBの人が居て、聞いてくれてちょっとアドバイスをしてくれるそういう所が欲しい。</p>
<p>子育ての支援員さんとかがいてくれたら… もっともある程度はスキルを身に着けた方が居ていただく必要はあるが。</p>
<p>がつつり構えておられても子どもたちは行きづらい。掃除のおばちゃんだけど実はプロみたいな、「あんた何～ 学校は？」ぐらいの軽～い感じで接してあげられると…</p>
<p>今日の段階で結論を出すのは難しいので、子育て会議の課題という事でその都度の課題として進めたいと思うがよろしいか。</p>
<p>まずは試みで、どこか場があれば事例を重ねていく事が大切。</p>

高校生への支援と子どもの健康とで重なる部分がある。医療費助成や予防接種の助成などは母子手帳の延長と併せて1つの項目でまとめてはどうか。

医療費助成、若い人検診、予防接種の助成も含めて母子手帳延長と併せてこどもの健康としてはどうか。

医療費助成は大きい課題要望なのであまり後ろにもっていきのほうかと思う。4つ目の項目を1番にもってきてはどうか。

医療費助成は今回のメインテーマだと思うので良いと思うが、皆さんどうか。

《反対意見なし》

2. 子どもの健康（医療費・検診などは高校生の支援へ掲載）

●子ども手帳（母子手帳の18歳まで延長）

母子手帳の延長については、子ども手帳にしようという事です。6歳ぐらいで書くところが終わってしまうので、18歳ぐらいまで使えるようにしてはどうか

手帳だけ延長してもダメなんではないか、医療費も予防接種も、施策を18歳まで延長していかないといけない。

ページを追加する方法もあるし、新たに作る方法もあるかと…

0歳から18歳までこの手帳が1冊あれば全部記入ができる。ということで、今回のコロナのワクチンについても今後毎年になるかもしれない。子ども手帳で管理できるようにして、子どもの成長の証として、記入できるといいなあと思う。

●産婦検診について

病院で妊婦さんが検診を受けていただくもの。現状は受診券を14枚発行しております。検診2回分を増やすのは産後分。赤ちゃんが生まれたあとの検診を2回受けもらえるようにするというもの。

赤ちゃんの3ヶ月や1歳の検診はこれには含まれない。従来通り保健センターで実施していく。

こちらは提案のとおりよいか。

3. 少子化対策について

不妊治療については県の助成が最大 30 万円ある。治療の内容によって変化するものとなっている。特定不妊治療、一般不妊治療がある。市の方は不足分を最大 10 万円まで助成している。色々な治療がありそれぞれに金額が変わるが、ここには書ききれないのでご了承いただきたい。

令和2年度の市が助成させていただいた方は特定37名、一般9名となっている。令和4年度から健康保険適用にしては、というところを国が検討している。

不育治療については県の事業。市は助成を行っていないため、何人の方が不育治療を受けておられるのかは把握できていない。

職場の理解については、会社の方もなかなか大変。男性の育児の取り組みは日本ではまだまだな状況。ワークライフバランス推進エクセレント企業認定制度というものが岐阜県にはある。県庁のホームページに掲載されている。エクセレントは恵那市で2社ぐらい。エクセレントではないが認定を盗っておられる企業は20社ほどある。恵那市としても何かPRに使えないかと考えている。また、父親への育児の推進も必要と考えている。

母になる教育のところでは、色々なところで啓発を実施しているが、子どもを産むためには準備が必要というところの啓発教育、適齢期、家族の計画というところの教育が必要ではないか啓発が必要ではないか…

●不妊治療、不育治療

不妊治療は来年度から保険が適用になるとの情報がある。
以前の会議で、恵那病院で不妊治療ができないか？という意見があったが、聞いてもらったところ、産婦人科がやっとできたところで不妊治療まではまだ難しいとのことであった。
この女性の年齢制限は？ →あります。43歳まで。
不育治療についてはデータがないという事か。 →そのとおり
実際に悩んで治療にいられておられる方がいるという事であれば、データを収集できると良い。困っている方がいるのは事実。

市の職員でも早産で流産しかけてしまって、3ヶ月ほど県病院へ入院していた人もいた。無事生まれたが、周囲の理解、職場の理解が大切。遠慮せずに休める環境が必要。

■この問題は令和4年度に保険適用となるか判らないので、引き続きの課題としていきたいと思います。

不妊治療と不育治療は、令和4年度から少し変わる可能性があるので、引き続き課題として考えていくことで良いか。

不育の治療については、県の方に申請者数を確認してみたいと思う。

後日調査：恵那市の助成件数 県助成 43件 県助成（不育）0件

●職場の理解

職場の理解の促進について、ワークライフバランス推進エクセレント企業には、岩村のくわのみさんが認定を取っておられる。職場内で結婚されたり、産休明けの母親の勤務時間への手当とか待遇とかをしっかりとやってみえて素晴らしい。

藤下さん（デジタ）のやってみえる工場では、社内に保育所をやってみえて女性が働きやすい。そういうところがたくさんできると職場理解が高まると思う。

授業でこういう所を教える関係もあるが、恵那での企業の育児、男性の育休取得率など、向上させることで子育て支援につながる。このあたりを書いておいた方がよいと思う。

■職場理解の促進についてはワークライフバランス推進認定企業のことなどを、広報などでPRしていけないかと思う。男女共同参画のところでも良いとは思いますが・・・

●親になるための教育（母になるための教育）

「母になる教育」もあるが「父になる教育」もあるわけで、男性育児の促進が括弧書きになっているのはマズい。「親になるため・・・」「保護者になるための・・・」支援と学びの場、つながりの場が、子育て支援の柱になる部分なので、ことばを変えた方が良いかと思う。

親になる教育」親とすれば父も母も入る。パパママ学級などは市のほうで取り組んでもらっているが、おなかに赤ちゃんの居る人の教育なので、これから子どもが欲しいなあと思う人の教育や支援があるいいのかなあと思う。心配もいろいろあると思う。

<p>他市の子育て支援センターなどを視察に行くことがあるが、休日はお父さんが子どもを連れてきているのを目にするが、お母さんが子どもを連れてきている場合と比べ、まだ差がある。お父さん自身がやりたい気持ちがあるが、どうやったらいいのかわからない部分も多い。お父さんお母さんを含めて一緒に考えあうそういう場があると良いのではないかと、モデルになるような場、子育て支援センターが一番良いと思うが、定期的に設けていくと良いのでは・・・</p>
<p>確かにお父さんが子どもを連れてくる方が増えてきた。ファミサポの連絡先を尋ねると、お父さんが「僕の方が連絡が取れるのでこちらに…」という方も増えてきた。</p>
<p>(活動時に) お子さんのミルクを缶ごとたっぷり持ってみえるお父さんも居て、ほほえましい。ご夫婦でみえる人も結構ある。</p>
<p>平成 23 年からファミリーサポートセンターを受託しているが、お父さんがみえるという事は以前は無かった。この 10 年くらいの間に大きく変わった。</p>
<p>合併当時から比べ人口は大きく減っているのに、世帯数は増えている。核家族化が進んで、今では 3 世代家族が少なくなっている。</p>
<p>岐市の子育て学級に関わっていて、お母さんたちの相談も受けるが、育児の相談などもあるが、最終的には”お父ちゃん”なんだよねーと相談を受ける。積極的なお父さんもいるし、やりたいけどできないお父さんもいるし、やらないお父さんもいる。層がはっきり分かれる。真ん中のやる気で頑張っているお父さんを支援してあげたい。</p>
<p>少数だけど父子家庭の方がみえて「どうやって子育てをして良いかわからない」という人もいて苦労されている。率直なところママ友が欲しいと言われる。息子は何とかなけれど娘は思春期になってきて本当に判らないとのこと。保育士も相談にのっている。少数だが父子家庭への支援も必要かなあと思う</p>
<p>少し前は父子家庭の親の会があって広報にも時々載っていたが、このごろ見ない気がする。</p>

●第 3 子（多子）支援

現状では、加えて病児保育所の保育料や学童保育の保育料で減免の支援がある。

もしこれらの支援を行った場合、どれぐらいの費用が必要になるかの資産をしてみた、ただし、保育料の部分は単価の要件が多岐に渡っていて、取りどころによって大きく数字が変わる。

保育料は第 5 階層の方で年間 487,200 円の保育料が掛かる。月 4 万円ちょっと必要。こここのところで試算をした。未満児の第 3 子が市内に 190 人いますので、全員

入園した場合、9,250万円の保育料となる。2ランク下げ第4階層の中となると月25,600円。12か月の190人で総5,800万円の保育料減免となる。多子世帯という事を考慮すると、扶養家族が多い世帯となるので第5階層は辛目の指標。190人の第3子未満児が全員こども園に行くかという、全員ではないので、半分ぐらいの子が行くとすると、2,900万円ほどとなりうる。試算の方法が色々あり保育料は変動する。給食費については、幼児コースで年間42,000円、幼保コースで54,000円、小学生が56,342円、中学生が63,828円の給食費が必要。変動するところが大きく変わるので何とも言えないが、1億2千万円ほどのお金が動いているという試算。

第3子の認定要件が狭い、という指摘があった。
保育料は無償化になったが未満児の部分で必要。給食費の負担も何とかならないかとの意見もあった。
未満児の給食費だけだといくらぐらいになるか？
入園のしおりをみると「未満児の給食費は保育料に含まれています。」とあり、判れていない一緒になっている。ちなみに、年長年中年少児は、月に4,000円ほどの給食費をいただいている計算となる。
未満児のこのサービスを実施するには保育料分の費用の他に、入園児が増え保育士が足らなくなるので新たに雇う必要があるが、その増加分は試算に入っていない。
受け入れの園舎は？ →未満児さんはそれなりの設備と部屋が必要なので、今より増えるとなると厳しいかもしれない。未満児は一人の保育士で看れる園児数が少ないので、保育士が大勢必要。また、最近支援の必要な子が増えているので、そちらにも保育士が必要になってきている。結構いっぱいな現状。
東農5市ではどういう状況か？他の市で第3子支援で保育料の減免とかやっているところはあるか？ →詳しくは調べていないが、東農5市に関しては大きく違わないと思われる。
未満児は先ほどのように、(園に)行くか行かないかの選択なので、入れた人は大きく恩恵があるが、入れなかった人には不公平が起きると考えると、基本全員が行く小学校中学校での給食費で減免した方が公平感があると思う。

<p>少子化対策として産まれる子どもを増やすところにダイレクトに支援となると、小さい子への支援の方が効果があるのでは</p>
<p>未満児の保育は利用する人としらない人が半々ぐらいで大きく分かれると思うので、片方は厚く支援があるのに、片方は何もありませんというのは不公平感が強い、行くか行かないか分かれる中で、かなり大きいお金を使うので、恩恵を受ける人と受けない人が分かれる。多子支援が全員に行渡らないと思う。</p>
<p>経済的な支援を考えると、未満児のところの負担が非常に大きい。未満児の保育料は幼児と比べてとても高い。多子・第3子支援でいうならばここに支援を入れた方が効果があると思う。</p>
<p>確かにそれはあるが、現状で全員が入れるならばそれも良いが施設も先生も増やさないといけないのなら…</p>
<p>第3子の支援なので、全額までが無理でも減免とかで何らかの支援ができれば良いと思う。</p>
<p>190人の半分でも未満児で入園したとすると、園舎が足りない、保育士が足りないという事態が起きるかもしれない。給食費なら良いとは思う。</p>
<p>20年前は、一学年に数人しか未満児で保育園に行く子はいなかったと思うが、現在は先ほどの核家族化の増加、男女平等、女性の地位向上などから園に預ける人は増えてきている。</p>
<p>やはり待機児童も未満児が多い。それだけ働かざるを得ないお父さんお母さんが多いのかと思う。</p>
<p>子どもをたくさん産んでいただきたいという気持ちはいっぱいだけど、看る人が居ないのに、受け入れる施設が足りないかもしれないし、金銭的な問題もある。</p>
<p>元保育園で新しい園は受け入れができています。元幼稚園だったところは未満児の受け入れ設備がないので、未満児は受け入れていない。</p>
<p>この中で切実なのは未満児かと思う。そこをやるかやらないかが選択かと思う。</p>
<p>未満児の場合、保育料が足枷になっていて、正職で産休育休がもらえる企業は復職しても、保育料以上に収入があるから良いが、微妙なところで働いている人は、預けて働いても保育料に収入が取られてしまうのなら（仕事を）辞めようか、という選択が出てくる。例えば半額の負担で済むとなれば、その人たちが未満児保育へ流れる可能性はある。</p>

全額の 487,200 円でなくて、半額でもありかと思う。初めから 100%減免でなくても、「3 子目以降のお子さんは半額ですよ。」というのもありかと…半額なら 5 千万円ぐらいでできる…

お金の試算は非常にばらつきがある。試算に用いた第 5 階層は毎月の保育料が 40,600 円。第 7 階層になれば 62,000 円になるし、第 3 階層ならば毎月 14,300 円になる。

ここの項目では、保育料の減免がメインになってくると思うが、給食費についてはまずはこのままいくという事でよろしいでしょうか。保育料の減免については、金額的な問題と園舎の問題、保育士の問題があるので、教育委員会と打ち合わせをしてもらわないと、ここで決めるわけにはいかない。

ここで方針として決めていただいても、幼児教育課と折衝しなければならないし、その後には財政との折衝もある。規則も変更しなければならない。色々とハードルはある。

となると来年度からとは難しいので、継続の審議としたい。あわせて、人数なども今の段階で何人ぐらい未満児に通っていて、あとどのくらいの人が追加で入園してくるかを掴んでもらいたい。

(支援が偏って) アンバランスな状態が起きる問題よりも、第 3 子を産んでいただくために支援を検討するという結論でよろしいか。

■委員長：皆さんよろしいですが
《反対意見なし》

4. 運動環境

●運動環境の提供

子どもの運動できる環境が不足しているというところをご指摘いただいている。現状として中央公園は来年または再来年で整備をすることは決まっている。

運動教室やイベントの開催、公園自体も遊具があるだけでなく、憩いできて、木があって、水辺があって、小さな子も居て、おじいさんも居られるものが良いというご意見があった

子どもが自然に触れあえる機会が少ないのではないかと。恵那には資源がいっぱいあるのにもったいない。

公園の中に作るのもいいし、里山の方に作るのも良いのでは…

●自然とのふれあい（木育の促進）

子どもが自然に触れあえる機会が少ないのではないかと。恵那には資源がいっぱいあるのにもったいない。（再掲）

公園の中に作るのもいいですし、里山の方に作るのも良いのでは…（再掲）

木育について、現在、恵那の木を使ってファーストスプーンを作る事業を展開している。

子ども園でネイチャーゲームと木を使った自然の遊び、基地づくりみたいなことをまず2園だけけどやろうという事で今年の活動に入っている。来年度そういう活動をいろんな子ども園に広げていけたらうれしいと思う。

遊びの環境と人とのふれあい、出会いみたいなところが必要なのかと思う。自然と触れ合える場所とか、木育もそうだが、大学ではネイチャーゲームリーダーの育成とかも始めたところだが、恵那にもそういう団体もあるので、自然をベースにしながら色々な子どもたちがふれ合えるような機会がつくられて、地域教育や自然の中で対等な関係や共通の経験の中で育ちあう場や機会づくりが考えられると思う。自然を通して豊かな経験をしていけると…

大学も学生たちにそういった経験を積ませたいと思うので、ぜひ（人材として）使っていただきたい。

●公園、遊具の充実

現状としては中央公園は、来年または再来年で整備をすることは決まっている。

運動教室やイベントの開催、公園自体も遊具があるだけでなく、憩いできて、木があって、水辺があって、小さな子も居て、おじいさんも居られるものが良いというご意見をいただいた。

子どもが自然に触れあえる機会が少ないのではないかと。恵那には資源がいっぱいあるのにもったいない。という意見をいただいた。公園の中に作るのもいいですし、里山の方に作るのも良いのでは…

遊具が少ない、というご意見もいただいた。せっかく出かけて行ったまきがね公園のローラー滑り台が故障で使えなかったというご報告もいただいた。こちらについては今回の補正予算に修理の費用が計上されることになりました。

中央公園をはじめ恵那市内の公園の有効活用をしていただくということを勧めていきたい。

●園庭開放について

こども園の園庭解放についての意見があった。

土曜日は保育があるので日曜日のことだとは思いますが、管理・安全面がしっかりできればよいかと思う。

園庭には遊具がある。小さな子どもが使える遊具がある。使わない日はぜひ使わせてほしい。とのご意見だった。月曜日に園児が使おうと思ったらぐちゃぐちゃだとか、先生たちがゴミ拾いをしなきゃならんとか、そういった懸念はある。

高額なお金はかからない。点検の行き届いた安全な遊具があり、市内 13 地域どこにでもこども園はある。

そこに資源があるので判るが、安全面での管理は必要。固定遊具だけなら良いが、遊び道具もとなると管理する人が必要。せっかくやるなら、子育ての支援員が居て関わりをつくと良い。せっかくのチャンス。やはり人。これをきっかけにコミュニティができる

これもたぶん東農 5 市初かもしれない。

以前は、岩村こども園は解放していたと思うので調べてみてください。園庭のみの解放。固定遊具は縛ってあった記憶。ボールなどは自分で持ってくるスタイル。

安直に遊具があるから…ではなく、実施には問題もありそう。

要望があるのであれば、どうしたら使えるようになるのかを検討してみるのも良い。何か制限を設けるとか、「保護者同伴に限る」であるとか、管理の面で防犯カメラを付けるとか…

何かマイナスの部分で抑えるのではなく、プラスの部分で活用して行けばどうか。

いずれにしても、教育委員会との協議を経ていく必要がある。

子ども園の園庭開放については、教育委員会と相談していただいて結論を出していただきたい

●親が気軽に話せる場所（えなえーるの活用、LINE チャットの活用）

親同士の話ができる場、LINE やチャットを使ったコミュニケーションの場のご提案もありました。資料に、あるように LINE のコミュニティのサイトを調べてみた。近いところで行くと「豊田市ママ」というトークルームがあるようです。地域は判りませんが「オンライン子育てサロン」などというものもあるようです。双子ママのお部屋・夜泣きサロン、なんていうものもあるようです。こんなようなものが恵那市でも出来たら…

恵那えーるでお母さんたちの交流の場ができないかなあ、10 人程度ならえなえーるで十分可能。この日は保健師、この日は保育士が居るといえるのができれば…

資料に写真があるように奥にキッチンのスペースがある。仕切りがあるので表のオープンスペースとは区切ることができでちょうどいい広さが確保できる。担当の課に聞いたところ、開いている時はどうぞ使ってくださいとのことであった。例えば毎週水曜日はママ友集まれみたいなことをやって、毎回でなくても良いが保健師さんが来てくれたり保育士の OB の方が来てくれたりしたら良いかと思う。

どこが主催になるか判らないが親の話せる場を恵那えーるで母親であっても父親であっても場所の提供と LINE とかチャットの活用もどこかで誰かがやっていたら良いと思う。

シングルマザー、シングルファーザーを対象として集まってもらうものは無いか？相談という意味では、ひとり親の集まりがあると良いのでは

先ほどお父さんが思春期の娘さんのことが判らないのと同じで、お母さんが春期の息子さんのことが判らないということがあると思う。
くくりが大きいと話がしやすくなるのでは…

えなえーるの有効活用ですが、子どもの遊ぶ場所はどこにあるのか。→写真ではちょうど柱に隠れているところにこどもの遊ぶスペースがある。

未満児の子どもたちが、座って先生方や親さんと遊びながら過ごすことができる場があると良い。子育て支援センターのような場が簡易的にでもできると良いのかなあと思う。

●全体の意見など

手のかかる子、支援をしなければならない子が年々増えてきている。その子どもたちが10年もすれば親になっていく。本当にこの子どもたちが生きやすい、生活していける社会、みんなが考えられる社会が無いと、ものすごく苦しいと思う。そんな時に、みんなのちょっとした支援とか暖かさとかが必要。今の子どもたちを見ながら考えさせられる。これが子どもの育成になるのかは判らないが、遊具を作ったりはお金があればできるけれど、気持ちのところはこれでいいのかなあと思う。どういう風にしたら、暖かく迎えてあげられるかと思う。

子どもの親の気持ちもだいぶ変わってきている。発達支援の場もできた。学校では支援級もあって、学習だけは支援級で普段の生活はみんなと一緒になど、使い分けられるようになっていく。ただ、親さんがそれを受け入れられない場合があって、適切な支援を受けられずに中学を迎えてしまう。早くから支援を受けていればもっと伸ばしてあげられることができたかもしれないが、普通級のままでできない判らないまま中学3年まで行った場合との差は歴然としている。親さんが自分の子どもの事をどれだけ理解できるかがすごく大事だと思う。

難しい問題。今言われている多様性の問題。子どもの育成の話と繋ぎながら考えていくと、保育の現場ではインクルーシブな考え方が浸透してきている。そういう子どもたちを含めて、遊びで楽しみに繋いでいく、やりたいことをどうやって保障していくかは保育の方法としていっぱい出てきているが、ここでいうところでは遊びの環境と人とのふれあい、出会いみたいなのが必要なのかなと思う。

前回、婚活についてご意見をいただきました。今回の施策には載っていませんが、既に担当課へここで出た話、アイデアを話してありますので、ご承知置きいただきたい。

目標とするところは恵那市がどれだけ住みやすい街になるか、子育てしやすい街にしていくかだと思う。親になる教育のところでもいくつぐらいまでに出産を計画しないと…ということを教育するにしても、子どもを作ろうと思ったところで支援策が何も無いのでは、産んでもらえない。こういう施策を進めていくと、予算とかが壁になって来る。やっていくにはそれなりに決意が必要。この場で話されている内容は最優先に近いものだと思っている。皆さんにはがんばっていただきたい。

■委員長：ありがとうございました。では事務局にお返しいたします。

■事務局（鈴木）：今日も色々な意見をいただき、またアイデアもいただいた。ありがとうございます。全部は無理にしてもこの中のいくつかはぜひ実現させたいと思いますのでよろしくお願いします。

■事務局（伊藤）：子育て支援、少子化対策、第3子支援であるとか、最初はすごく漠然とした内容だったが、ある程度項目を絞っていただいたのは非常に大きな成果だと思う。みなさんが、何を望んでおられるのか大変貴重なご意見だと思う。こののちは、行政側としてお金をどうするんだ、という事がついて回るわけですが、この会議で委員の皆さんが望んでおられたこと、重視しておられたことをお伝えして、実現に向けていきたい。

■副委員長：この会に来るたびに、たくさんの意見を聞けたので勉強させてもらった。子ども・子育て会議は大事な会議なんだと思いました。これからどうなっていくのか見守っていききたいと思う。ありがとうございました。

— 終了 21:02 —